

令和6年11月27日（水）開催令和6年度第1回区民対話会議事要旨

中央区地域づくり支援課

（概要）

今回、区民対話会の初めての試みとして、本市と包括協定を結んでいる区内の大学（淑徳大学）と昼休みの時間を活用し、持ち寄りの食事をとりながらランチミーティング形式で実施した。

会議の冒頭、「淑徳大学と千葉市との包括協定を結び連携を強化している関係がある中、地域における淑徳大学の学生の皆さんのボランティア活動の状況をお聞きしたい。加えて、生活環境も教えてもらい、皆さんにとって魅力ある街にしていくには、中央区としてどのようなことをする必要があるのであるのかヒントを探りたい。」といった趣旨の区長の挨拶により、区民対話会が始まった。

※参加者 学生11人、大学職員2人

（千葉市と淑徳大学の包括協定についての説明）

中央区役所の職員紹介のあと、本市との協定について次のとおり説明した。

平成22年5月に締結していた相互連携においては、「白旗七夕まつり支援」及び「生実町花火大会支援」などを具体的な中央区での活動を例示していた。

これに対し、平成29年6月に締結した包括協定では、中央区にある大学として、特に中央区における地域課題解決に向け、学生の地域社会への参画をより一層進めるとともに、大学資源の提供など、「開かれた地域拠点」としての大学の機能を高めるとした。

（学生自己紹介）

自己紹介で、学生が参加したボランティア活動を紹介した。その中で出た活動や活動団体等は次のとおりであり、参加者が問題意識を持ち、積極的に地域社会に関わっていることが分かった。中には、数団体の代表を兼ねている者、過去に兼ねていた者も複数存在するなど、積極的に活動に関わっていることを示していた。

○サークル・団体及びその活動

- ・イーグルアイズ（防犯パトロール）
- ・学生消防団（大学周辺の町内自治会の防災パトロール、秋の火災予防運動に学内消防車で参加、消防学校訓練への定期的参加、救命講習実施（女性団員専用を含む。）、七夕まつりでの水消火器体験ブースを開設
- ・淑徳大学青年赤十字奉仕団（献血呼掛、募金活動、千葉市民花火大会での救護活動）
- ・ともいきスタッフ（ボランティアサークル）
- ・全国学生ボランティアフォーラム
- ・県警の学生サポーター活動（非行少年の立ち直り支援等）
- ・学内SDGsサークルの立ち上げ（地域や学内で資源が循環していく仕組み作りを目指

し、今年の文化祭で、学生や教職員から不要物を集め、学生、地域に還元した。また、古着をリユースしてパキスタンを支援しているJFSA（特定非営利活動法人日本ファイバークリサイクル連帯協議会）に売れ残った古着を寄付。

○その他の活動

・能登半島の災害復興支援・小学校の特別支援学級サポート・配食サービス・花火大会運営・ジュニアライフセービング・出身地で、高校時に運営に携わった子ども食堂に帰省時に参加・SNS運営・ジュニアリーダーズクラブ（小学生の夏キャンプ等）・地元での古民家リノベーション・等々

（地域共生センターの職員（コーディネーター）自己紹介）

昨年度より地域連携室という部署に加えて、三キャンパスを通して学生の地域活動を推進するような部署として地域共生センターが設置された。学生との共同作業の企画、地域住民との交流会や体験イベントの定期的な実施、能登半島地震などの復興支援活動などを行っていることなど地域共生センターの取組が紹介された。

（中央区長）

地域を盛り上げるためのお祭り、花火大会や運動会などで、皆さんの活躍を頻繁に見受ける。関連して、明確な指示が必要か、反対に、自由に活動させてほしいかなど、主催者や、運営側に求めることはあるか。

（学生）

・指示や活動の自由度について

地域の人に、尊重されて、押し付けられずに自分たちが計画で自由に活動させてもらっており、活動しやすい。

・イベントの場所について

例えば、白幡七夕まつりでは、昨年の商店街の歩行者天国より今年の公園の方がやりやすかった。

商店街の賑わいへの効果は別として、運営という点を考えると、歩行者天国に比べて、盛り上がりやほかのブースを見ることが可能な公園は良かった。

（中央区長）

商店街との協働という点で課題は何か。

（学生）

商店街の人と協力するにあたって、自営業ということで、会議が夜遅くなり、遠くから通学している学生にとっては、参加しにくい。

（中央区長及び中央区職員）

これに関連して、初めの会議は、対面にして、2回目からは、ICTを活用するといった方法はどうか。また、ICT活用の実績はあるか。

(学生)

今のところ対面で対応している。SNSは、興味がないと見ないので、紙媒体の配布、回覧は今でも効果があると感じている。

(地域連携室)

大学で紙資料を作って配っている。

(中央区長)

全国的なボランティア組織での活動や募集方法でのトレンドについて、全国の学生ボランティアフォーラムに参加している方にお聞きしたい。

(学生)

発信は、どの団体も紙媒体よりSNSを使っている。それの方が面白さもある。

(中央区長)

大学の物理的な掲示板の利用や、区役所などのホームページを利用する方法もあるが、わざわざホームページとか見に行かない場合もある。直接、ボランティアグループとつながっていることが必要なのか。何が効果的だと思うか。

(学生)

メールを見ない人が多い。社会福祉協議会の関係でつながっているボランティアとLINEでつながっており、これを活用している。情報が目には止まりやすくなっている。人を集めることにも効果がある。SNS等で、直接つながっている方が良い。

(学生)

実際には、SNSをやってない学生もいるので、紙も有効であると思う。掲示物は目につかない場合が多いが、チラシによる回覧や配布だと目に留まりやすい。

(学生)

SNSの発信力、拡散力は認めるが、興味と同じ人でつながっていて興味がないと見ないし、狭いネットワークが形成されやすいという傾向がある。

(学生)

SNSの情報がすべて良いとは限らないので、怖い。詐欺的なものなど、変なところに繋がっていないか。個人情報の保護は大丈夫か。特に、最近はいろいろな事件が起きているので、大学のホームページを利用するなど、その掲載内容をよく確認する傾向がある。

(中央区長)

市も発信する出どころを明確にしていくことが必要である。

(学生)

お互いのアカウントに対して、区役所とか市役所とかのホームページからSNSにリンクさせるとかが安全確保上、必要だ。

ボランティアフォーラムの友人が発信するボランティア情報には参加したい。信頼できるところからの安全性の高い情報が必要だ。

(中央区長)

安全性が重要であり、今回、情報発信として、様々な方法をつかった方が良いということ

が分かった。

(中央区長)

住みやすさや魅力的な街とは何かに関連し、千葉県内で住む場所としてどこが良いかについて事前質問があったので、この点について詳しく内容を教えてほしい。

(学生)

事前質問として、千葉県内でどこが住みやすいかを検討し、花見川区や八千代市などを考えた。結果として、大学の近くに引っ越すということで、蘇我の周辺を選択した。

(中央区長)

千葉県は災害の少ない都市だと言われている。千葉県全体で見ると、気象庁が発表する北西部、北東部、南部という三つの区分で、南部の勝浦は118年間、猛暑日がなく涼しいといわれている。北東部の銚子も風は強いが涼しい。南部は、雨が多い。このようなことを考慮して、気候で決める方法もある。

このほか、鉄道などの交通の便を重視するのか。様々な観点から検討してほしい。

(中央区長)

住みやすさということで、中央区はどのような街と言えると思うか。

(学生)

出身が茨城県で、JRの駅まで車で1時間ぐらい、最寄りの駅も20分、電車は1時間に1本しか来ないところだ。これに比べ、蘇我は都会だ。近くにスーパーもある。蘇我から木更津にも東京にも行ける。ただ、車があった方が便利だが、蘇我駅周辺は駐車場が少ない。加えて、家賃や管理費が高すぎる。

(中央区長)

鉄道の面で言えば、蘇我駅や千葉駅は、ハブになっている。蘇我は、京葉線が強みだが、バスについては、運転手の確保等で減便されている。

(学生)

蘇我駅の近くにバイト先があるので、夜帰ってくる時とか、夜の便が少ない。特に夜の9時すぎは、困る。街灯も暗い。

(中央区長)

繁華街は、24時間明るいけど、住宅地は暗いところもある。

(学生(東京在住)の意見)

千葉は、東京に通っている人も多く、夜の9時台にバスが少ないのは、問題だ。

(中央区長)

運転手不足の問題はあるが、バス減便は、千葉市として、大きな問題として交通事業者等に状況等を確認しており、今後は、国等に要望していくことになると思う。

(学生)

旭市から3年間、通学しており、電車に乗っている時間は実質1時間半弱、本数が1時間に1本なので、電車に合わせて通学している。大学についてから1時間ぐらい待つこと

もある。

蘇我については、程良い都会だと感じる。1年生からやり直すなら、友達と部屋をシェアしたい。

(中央区長)

昼と夜ということで考えると、昼は、住みやすさということになるのか。夜についても、防犯街灯が少ないなどもあるが、フリーな時間の過ごし方をどう楽しむのか若い人が賑わいを求めて街に出る時に、どういった視点で街に出ていくのか。繁華街には客引きがいるが怖さを感じるか。賑わいの創出というのも区役所で取り組んでいることだ。

(学生)

中央区に住んでいるので、飲みに行くとしたら、夜、遅くともやっている千葉駅周辺だ。

(学生)

客引きは無視して目的の場所に行くので、あまり気にならない。

(中央区長)

ほかに意見はあるか。

(学生)

全然飲みに行かない者にとってみると、買い物がしやすいというのはポイントとなる。現在、中央区在住であり、緑区の農家まで、自転車で新鮮な野菜を買い出しに行っている。直接その農家さんの顔が見える環境を作ることが楽しい。スーパーに頼らないようにしている。顔が見えるという点で個人の商店のある商店街も大切にしたい。

(中央区長)

今、個人商店が閉店し、シャッター街が増えているので、昼の部分について、生活しづらい環境になりつつあるのかもしれない。

(学生)

車いすで生活しているので、チェーン店・スーパーが必要で多用している。バスも減っていて買い物に困っている。ただ、基本は、現地スーパーで見て、ネットスーパーを使って、なんとかやりくりしている。千葉市は、イオン関連が充実しているので、助かる。

(中央区長)

イオン関連に加え、他の事業者関係も配達してくれるところはあり、選択できることが重要である。

(学生)

スーパーに行く場合は、バスを使うが、平日しかバリアフリーバスがない場合は困る。

(中央区長)

確かにバリアフリーバスは増えている。事業者がバスの入替の際には、バリアフリーバス導入について考慮しているのではないだろうか。

(中央区長)

防犯についてご意見を求めたい。

(学生)

大通りから1本脇に入ると暗い。

(学生)

夜中のバイクによる騒音もあるし、大音量で音楽を流す車もある。

メイン通りが明るい分、1本横に入ると暗い。バスも少ない。最近の改正で、日中も含めてバスが減った。

千葉駅まで電車で行き、用事を済ますこともあるが、帰る時、バスにうまく乗れず、歩くと坂もあり、辛いし、やはり道が暗い。人通りは多いが、不審者も見かける。

(中央区長)

街として、大きな声で、助けを呼べる人が出てくれることが安心上重要であり、街づくりの上で、重要だ。

(学生)

小学校と中学校が近くに多いてというのは、大人の目が多く、安心できるポイントだ。

(中央区長)

特に千葉市の小学校では、セーフティウォッチャーという制度があり、実績があり、安心面で寄与している。

(中央区職員)

防犯街灯は、町内自治会等が設置し、市が、設置費用や電気代を補助しており、町内自治会の組織は、市行政にとって重要である。

(中央区長)

事前質問のあった脱炭素について、千葉市の取り組みを説明する。

県内で初めて選定された脱炭素先行地域として、電力消費に伴うCO₂排出を抑えていくという取り組みであり、住宅建築で、太陽光パネル設置について補助を出している。他には、千葉市役所新庁舎では、トイレの水については、中水という雨水などをためておいて、きれいにしたものを使っている。地下水も利用し、雨の少ない時期にも備えている。

また、屋上庭園や壁面に植栽をしている。このほかには、エアコンの吹き出し口を床に設置して、体感を重視した効率の良い温度管理を行っている。加えて、使っていない部屋の明かりは自然と暗くなる。

全職員、各自、ノーカーボンを宣言し、マイボトルなどを使用するなどしている。中央区では、松ヶ丘地区で、プラスチックなどを分けて排出する実証実験を実施している最中であり、モデル地区で意見を聞きながら全市展開ができるかを検討していく。

(中央区長)

緑区の農家から食材を仕入れているという情報をいただいたので、試してみたい。スーパー以外の商店街も利用したい。

サイクリングも環境にも良いし、千葉開府900年で、若葉区から中央区にかけて自転

車で安全に移動できる道の整備などの声もちらほら出ている中、自転車を積極的に使っているということもポイントだと感じる事ができた。

(中央区職員)

皆様の意見も、どんどん吸い上げていきたい。何かあったら連絡がほしいこと。

高齢者の方がスマホ使えない人に使い方を教えるというボランティア活動の可能性もある。

(中央区長)

貴重な時間をいただき、感謝している。このつながりを大切にしたいので、何かあればメール等で意見をいただきたい。

以上で、区民対話会は終了した。